



BALLE

MAKIDAMA



巻き珠

TASSEL & CARTONNAGE

TEXT, ILLUSTRATION, PHOTOGRAPHY, DESIGN : TASSEL N COPYRIGHT © 2010-2018 PASSAMANO.JP ALL RIGHTS RESERVED.

巻き珠

巻き珠は、木のボール（木球）を糸や紐で巻いて装飾する総称ですが、原型は「木の芯に数色の糸を巻いた珠飾り」です。元は真珠のような高価な宝飾物を指す「珠」を意味するものです。芯にする形には、球形のものからナツメ形、卵形、壺形、菱形、錐形等があり、形を組み合わせで飾りにしていきます。中でもオーソドックスに用いやすい球形が「巻き玉」なのです。

クリスマスツリーに飾るポーブル（bauble）は、生命の樹を象徴する果実を意味したものとされ、クリスマスのオーナメントとして小さな「ヴァル：珠飾り」（2010 年）を製作しました。

巻き珠には糸や紐で包むラッピング（wrapping）という技法を用います。単一の木球を珠飾りとするために、繋いだり吊るしたりできる中通しの穴が球の中心に開けられています。この中通しの穴を糸や紐で包んでいく起点にしていきます。

ラッピングの基本技法は、木球に対して水平に糸や紐をカタツムリや巻貝のように螺旋状に巻いていく「スネイル：snail」を用います。主に紐（コード）を用いて層をなす縁を魅せることができる手法です。スネイルで用いる木球の中通し穴は、紐の巻き始めと終わりを処理するために、小さな穴の木球を用います。また、スネイルした後の巻き珠に、ビーズやロンデルなどのアクセサリパーツを付加して、より一層の魅力を引き立てた使い方ができるようになります。

スネイリング

木玉の中通し穴を軸にして、横方向に渦を巻いていく手法をスネイリングといいます。糸よりも紐を巻くことに向くスネイリングでは、予めカラーリングした撚り紐を用いることで、螺旋状に糸目と糸色による柄を表すことができます。スネイリングには、一本の紐で巻くシングルスネイルと、2本の紐で巻くダブルスネイリングがあります。ダブルスネイルの方が細かな巻き模様が現れてきます。中通し穴の上下は、巻き始めと巻き終わりに用います。木玉の表面に接着剤を塗布し、紐を巻きながら接着固定させていきます。紐を詰めながら巻き目を水平に巻いていき、巻き終わりの中通し穴で糸始末をします。



ストライピング

木玉の中通し穴を始点と終点にして、上下に巻いていく手法をストライピングといいます。紐ではなく細糸を用いて、木玉表面を縦糸でラッピングしていくものです。糸は1本ずつ巻くのではなく、ある程度束にしたものを中通し穴を起点にして掛けて折り返していくため、縫取りに似て、掛け糸とニードルを用いて作ります。基本的に接着剤を用いませんが、糸束を穴軸で集束して留めることで糸束が開いて木玉の表面を覆い隠すことができます。糸束の色を違えることで、縦に面また筋状でストライプ柄をつけることができます。全てラップできれば巻き終わりの糸束を縛って始末します。



Balle - ダブルスネイルの手法 DOUBLE SNAIL



ダブルスネイリング

ダブルスネイリングによる巻き珠づくりは、巻くことよりも“止め”をどう考えるかが重要です。カバーリングやラッピング方法を用いる場合は、どこから始めてどこで終わるかが重要なポイントになります。始めの糸止めと終わりの糸始末を決めながら、その中で結びや終いをどう入れたら美しく仕上がるかを考えることです。この巻き珠づくりは、木玉の上部の穴に集中させています。仕上げではロンデルの装飾でカバーするので、巻き始めと巻き終わりは外から見えない仕上がりになります。

巻き珠の材料

巻き珠の材料は、巻き芯になる木玉（ウッドビーズ）1個（穴開き）。ロンデル1個。中通しビーズ1個。刺しゅう糸 25# 一総です。材料のポイントは、まず木玉の大きさに対して、ロンデルとビーズのバランスを考えて選びます。特にロンデルの受けにマッチするビーズの大きさをコーディネートすることが大切です。また、ビーズはアクリルでもガラスでもよいですが、刺しゅう糸で撚り合せたコードを中通しできるものがベストです。アクリルビーズならバイスで穴の大きさを広げ、ガラスビーズなら精密ダイヤモンドヤスリで穴を広げて使えるように加工しておきます。



〈主材料〉

- ・木玉（ウッドビーズ）：1個
- ・ロンデル：1個
- ・中通しビーズ：1個

〈その他の補完材料〉

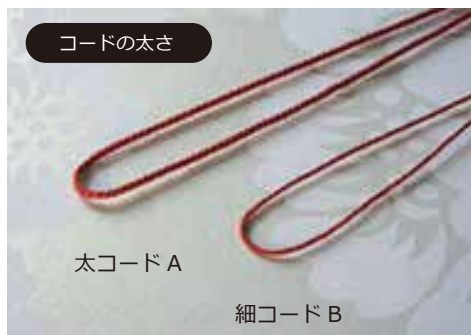
- ・ホットメルト
- ・極細ノズルクラフトボンド
- ・クリップ
- ・精密ペラ

コードの撚り合わせ

スネイリングするコードの太さではビーズに中通しできないため、太さの異なる2つのコードに撚り合せたものを使用しています。

スネイリング用コードは太く（A）、ハンギング用のループコードは細く（B）撚り合せます。どちらも刺しゅう糸から糸取りをしています。

太コード A は、刺しゅう糸 6 st をそのまま3ツイストで撚り合せ、細コード B は、2本ごとに糸抜きをして3ツイストで撚り合せたものです。



コードのジョイント

巻き珠の糸終いを考えて、細コードと太コードをジョイントしておきます。細コードはループ状の掛けコードにして、太コードは、巻き珠をダブルでスネイリングできるようにします。



細コードは、ループさせて一重で結び、結びめをクリップで固定しておきます。さらにサージョンズノットで結び、結びめを開いておきます。

サージョンズノットで結んだ輪の中に、半分に二つ折りして長さを揃えた太コードを通します。

細コードのサージョンズノットを引き締めて、太コードをしっかり固定します。細コードのコードエンドをカットすれば完成です。



5 ループさせたハンギングコードを中通しする。



6 結び目を木玉の途中で止めクリップする。



7 スネイリングコードを左右二つに開く。



8 ホットメルトで木玉の穴止め。※盛上げないこと



9 接着する面にボンドを塗り少し乾燥硬化させる。



10 開いたコードを互いに交差させて穴上で固定。



11 互いのコードを交互に巻いていく。



12 まず底のスネイルを円形に完成させておく。



木玉の下半分まで巻き進める。



木玉の上半分を巻き進めていく。



木玉上部の穴までしっかり埋めるよう巻く。



ハンギングコードの根元に接着剤を注入する。



スネイルコードをカットし上部の穴中に終いこむ。糸終いた部分の形を美しく整形する。



ロンデルとビーズをハンギングコードに通す。



パーツを一行に真っ直ぐ並べて接着固定。(完成)

おわりに

ダブルスネイリングは、2本のコードを互いに巻いていくことで、渦巻きを大きく作ることができます。コードの色を変えるだけでスネイリングパターンを変化させることができます。ダブルスネイリングの難しい点は、巻き始めとする木玉の底穴からの折り返しを、均等に形成しながら渦巻きを作ることです。作例で太さの異なるコードを使っているのは、コードの色を変えることや、木玉の重さに対してコードが丈夫すぎると垂れの美しさがなくなるためです。また二本のコードをジョイントする結び目を利用してコード抜けを防いでいます。巻き珠づくりは、外見は単純な設え方に見えても中身の構造をしっかり作っておくことが重要です。

BALLE 巻き珠 MAKIDAMA

2018年09月15日 第三版（PDF版／改訂）

2018年01月01日 第二版（PDF版／改訂）

2010年11月24日 第一版（E-BOOK版／廃版）

著 者 濱本 修徳

掲 載 TASSEL&CARTONNAGE

発 行 PASSAMANO.JP

ホームページ <https://www.passamano.jp>

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、著者、発行者の許諾を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。

Copyright © 2010-2018 N.HAMAMOTO All rights reserved.

Published by PASSAMANO.JP

Original Japanese edited by N.HAMAMOTO

First edition 2010.11.24